

の む ら
能牟良の
まちづくり計画

(2018~2028)

地域に誇りと魅力
を感じるまちづくり

保存版

平成30年4月21日
野村地区まちづくり協議会

野村地区まちづくり計画の役割

野村地区まちづくり協議会は、発足4年を迎え、「地域課題テーマ」に関する全戸を対象とするアンケート（平成25年8月）に基づき、各種事業の展開を計ってきました。

この間住民の皆様より出されたご意見に加え、人口構成の変動（生産年齢世帯の増加）に伴う児童数の増加など、少子高齢化とは異なる変化が生じており、この傾向は今後も継続すると予測されています。

今回、各戸配布した「野村地区まちづくり計画」は、これら地域の状況の変化に対応すべく、野村地区の住民が一丸となって取り組む活動の目標を定めたもので、「野村に住んで良かった」と思えるような誰もが誇れるまちづくりを目指して行きます。

本計画案は、本年2月全戸回覧をして、皆様より頂戴したご意見ご要望に基づき修正し、本年4月21日の総会で正式に承認されました。

今後、まちづくり計画は、時代の潮流や地域状況の変化、更に住民の皆様のご要望に対応し、毎年見直し検討がされます。



野村地区まちづくり計画

1. 野村地区の現状と課題

1) 地勢・立地

野村地区は、市中央部に位置し、南に鈴鹿川、北に棕川、東に竜川に囲まれ、西は布気町に接する自然豊かな地域で、市街地は鈴鹿川の強固な河岸段丘（海拔50～70m）の上であり、自然災害の少ない地域である。

また、JR亀山駅に近いうえ、東西には旧国道1号線、旧東海道、県道西町白木線、南北には市道と和賀白川線が走っており、市内外や高速道へのアクセスは良好である。

更に、市内循環バス2系列も運行しており、利便性を補完している。

地区内の重要な公共施設として、亀山警察署、亀山消防署のほか、西野公園体育館・野球場、また近接して、図書館、歴史博物館、環境センター、斎場があり、更に、市役所、亀山中学校や亀山西小学校も徒歩15分圏内にある。

介護施設は、特養1、グループホーム1があり、その他、医院3、愛護園1も地区内に立地している。

また、野村地区まちづくり協議会の中心施設であるコミュニティセンターは、略全ての地区住民の自宅より概ね1km以内に立地しており、利便性が高い。

2) 人口動態

野村地区の過去10年間の人口動態は、ページ6、7の人口動態資料（過去・現在・未来）の第1表に示した通りである。この表より、南野町と野村一丁目において、新しく転入してきた世帯による人口増が顕著に見られ、野村地区全体として、人口で48人、107世帯の増加がみられる。これは、旧国鉄官舎跡地や、個人又は企業の空家や空地の活用が主な要因である。

一方、野村地区の10～50年後の人口シミュレーションを、県地域支援課を通じてシンクタンク（一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所）で試算したところ、図②～⑥に示す通り、過去10年間の人口動態の実績は、そのまま将来に亘って続き、世帯増による人口増が予想されている。

この増加する世帯は、何れも若い生産年齢人口世帯であり、そのため平成29年の15歳未満の児童数は、266人と過去最高を記録しており、このまま推移すれば、現状29%の高齢化率は年々減少に転じ、50年後には20%に逡減すると推測されている。

野村地区には、空家・空地や企業の遊休地が、今後も発生することが見込まれることから、住宅地としての立地の良さを勘案すると、上記シミュレーションの確度は高いものと見込まれる。亀山駅前開発やリニア駅の建設、市役所の建設、工場誘致等、市の将来計画が進み、空家空地の転用が円滑に進めば、

その実現性は更に高まると考えられる。

3) 歴史文化

平成29年10月に、野村忍山神社の鎮座2,100年祭が催行され、恒例の市指定無形文化財である傘鉾巡行が挙行された。

野村地区から出土した土器類は、縄文から弥生時代のものが野村遺跡と忍山遺跡から見られるが、その後、市まちなみ文化財室や歴史博物館の発掘調査により、これらの遺物は、奈良・鎌倉・室町・江戸と、今日まで時代が途切れることも無く人の営みが続いていた事を示しており、当地区一円が野村遺跡の中に包含されている。

地区中心部には、亀山城京口門跡から野村一里塚を越えて旧東海道が伸び、その両側には、江戸期の武家屋敷跡（南野・北野）、連子格子戸のある民家、国指定重要文化財の阿弥陀如来像を安置する慈恩寺、江戸期に建立された寺院群（4ヶ寺）等、亀山宿の面影を受け継ぐ貴重な街並みを有している。更に、秀吉の亀山城攻め本陣跡、陶芸家初代道八の生家跡や県指定天然記念物の大銀杏を有する宗英寺等、多くの史跡を有しており、休日には多くの歴史愛好者を迎えている。ただ、古民家の改築されている事、公衆トイレがない事、案内標識や休憩所の不備等が問題である。

2. まちづくりの目標

地域の「現状と課題」を受けて、今後のまちづくりの目標を、次の5項目に取り纏めた。

- ①健康で生き甲斐を持てるまちづくり
- ②子育てと子どもの成長を支えるまちづくり
- ③豊かな自然環境を保護し活用するまちづくり
- ④歴史文化の継承と発展を目指すまちづくり
- ⑤安全・安心で互いに支え合い助け合うまちづくり

これらの5項目を総括した基本目標を次の通りとします。

基本目標

地域に誇りと魅力を感じるまちづくり

3. 具体的な取り組み

上記の基本目標の下で、5項目のまちづくりの目標を具体化する為、8つの専門部会を置いて、各々が下記の事業取組みを行う。

1) 総務管理部

- ・ 広報「のむら」の発行
- ・ ホームページの運営
- ・ まちづくり協議会を支える人材づくり
- ・ 野村史誌の編集

2) 教育文化部

- ・ 盆踊り・菊花展・農芸祭・文化祭の開催
- ・ 地域文化の向上、住民の生き甲斐と相互交流の推進

3) 体育部

- ・ 運動会、グラウンドゴルフ大会の開催
- ・ 三世代の交流と親睦を深め、体力増進と健全な精神の高揚を図る

4) 青少年育成部

- ・ ナイターの親子球技大会・夏休み科学教室・三世代ふれあいもちつき大会・教育講演会の開催
- ・ 地区子ども育成会、小中PTA、小中学校と連携を図り、親子の触れ合いや明るい家庭づくりを深め、他の人を思う心の醸成を行い、青少年の健全な育成に努める。

5) 福祉部

- ・ 高齢者いきいきサロン・幼児ぴよぴよサロンの開催（1回／月）
- ・ 敬老会や健康教室の開催
- ・ 高齢者訪問や見守り活動
- ・ 幼児の子育て支援や、高齢者の介護予防や生き甲斐づくり
- ・ 高齢者の外出支援対策の検討

6) 女性部

- ・ バス研修旅行の開催
- ・ 福祉部、青少年育成部と共同して、ラジオ体操・敬老会・もちつき大会等を開催
- ・ 高齢者や児童との交流を深め、生き甲斐と健全育成の推進

7) 防災防犯部

- ・ 消防署や警察署等の協力を得て、防災訓練や防犯教育の実施
- ・ 各自治会の自主防災会の支援
- ・ 避難行動要支援者の見守りネットワークの構築
- ・ 空家空地の管理支援や迷惑駐車的全廃
- ・ 通学路の登下校見守りや、交通安全運動支援
- ・ 旧東海道の制限速度（30キロ）の周知と遵守

8) 地域環境部

（歴史を感じるまちづくり）

- ・ 市まちなみ文化財室や歴史博物館の支援を得て、野村地区の歴史遺産をテーマにした講演会・展示会・勉強会
- ・ 旧佐野家（重要伝統的建築物）の有効活用
- ・ 格子戸の保存・維持管理支援
- ・ 案内板の作成支援
（三世代で楽しむ街）
- ・ 「竜川花街道」づくり（ハナミズキ・サルスベリ・ミツマタ・レンゲ・コスモス・ヒガンバナ等の植生と除草管理）
- ・ 竜川にホタルを増殖させるプロジェクト推進
- ・ 子どもの遊び場作り

（京口門の復元）

東海道53次広重の浮世絵「雪晴れ」に描かれている京口門の復元
照光寺～梅巖寺間の旧道と旧京口橋の復元

4. 長期事業のタイムスケジュール表

事業項目	前 期					後 期
	2018	19	20	21	22	2023 ~ 2027
まちづくりを支える人材づくり	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
野村史誌の編纂			⇒	⇒	⇒	
高齢者の外出支援の検討	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	
要援護者の見守りネットワークづくり	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	
空家空地の管理支援	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
迷惑駐車的全廃	⇒	⇒				
旧東海道の制限速度(30キロ)の周知と遵守	⇒	⇒	⇒	⇒		
旧佐野家の有効活用	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	
古民家の格子戸の保存管理支援	⇒	⇒	⇒			
史跡類の案内板作成支援		⇒	⇒	⇒	⇒	
竜川花街道づくり	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
竜川にホタルの増殖管理	⇒	⇒	⇒			
子どもの遊び場づくり		⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
京口門の復元			⇒	⇒	⇒	⇒

注1) これら事業は、住民のアンケート調査より提案されたテーマを元としたもので、行政及び、社協等その他機関と協同して行う事業となり、予算措置についても協同して対応する。

注2) これらの計画は、毎年進捗状況を見直し、事業の修正や新規テーマの追加も行いながら、地域の問題解決に資するよう努力する。

人口動態資料(過去・現在・未来)

第1表

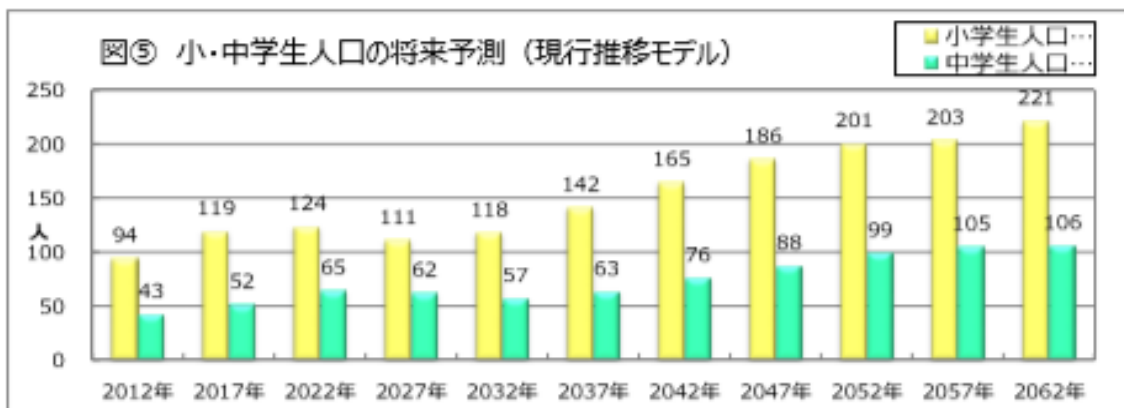
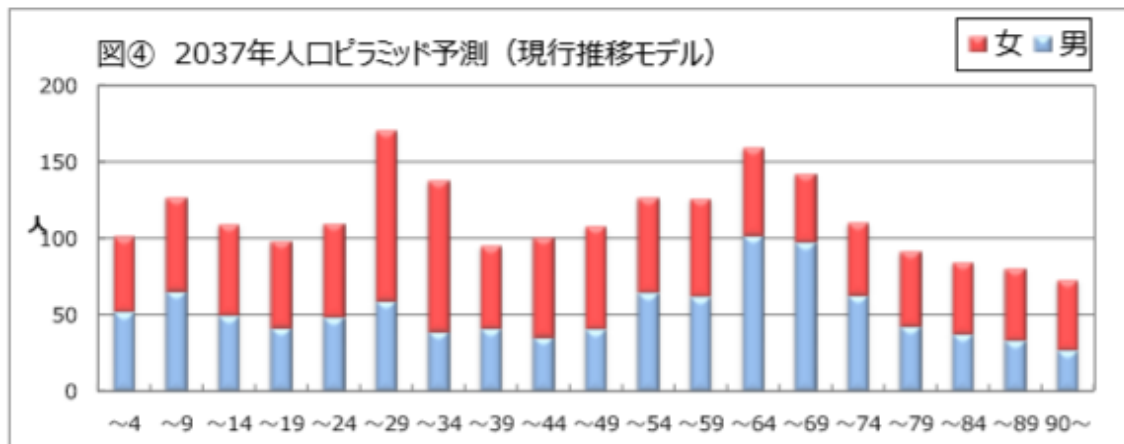
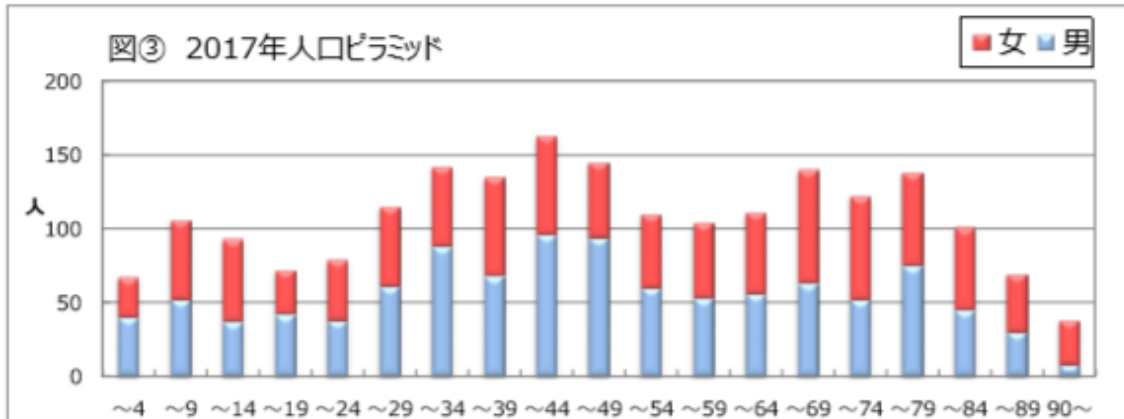
野村地区の人口と世帯数（平成19年／29年）

町名		男子	女子	合計	世帯数
北野町	平成19年	27	28	55	22
	平成29年	22	18	40	15
南野町	平成19年	290	251	541	270
	平成29年	339	253	592	329
野村 一丁目	平成19年	294	300	594	244
	平成29年	322	349	671	297
野村 二丁目	平成19年	41	50	91	30
	平成29年	45	38	83	31
野村 三丁目	平成19年	311	327	638	246
	平成29年	308	310	618	273
野村 四丁目	平成19年	76	54	130	87
	平成29年	51	42	93	61
総計	平成19年	1039	1010	2049	899
	平成29年	1087	1010	2097	1006

野村地区人口予測シミュレーション

図② 今後の人口予測（現行推移モデル）





(参考資料)

1 亀山市の人口・社会資源の状況

人口

	平成 23 年	平成 29 年	増減
総人口	49,972 人	49,795 人	-177 人
65 歳以上	人口 11,033 人	12,912 人	1,879 人
	比率 22.1%	25.9%	3.8%
18 歳以下	人口 8,823 人	8,927 人	104 人
	比率 17.7%	17.9%	0.2%
外国籍	人口 2,099 人	1,877 人	-222 人
	比率 4.2%	3.8%	-0.4%

世帯

	平成 23 年	平成 29 年	増減
総世帯	20,096 世帯	21,107 世帯	1,011 世帯
ひとり暮らし	762 世帯	867 世帯	105 世帯
ふたり暮らし	505 世帯	579 世帯	74 世帯

地域組織

	平成 23 年	平成 29 年	増減
自治会	224	237	13
老人クラブ	64	39	-25
子ども会	73	55	-18

	平成 23 年	平成 29 年	増減
民生委員・児童委員	87 人	89 人	2
福祉委員	339 人	363 人	24
介護保険施設・事業所	6	32	26
障がい福祉施設・事業所	3	16	13
ふれあい・いきいきサロン	34	80	46
子育てサロン	10	8	-2
コミュニティサロン	0	8	8
保育所	13	13	0
幼稚園	6	5	-1
認定こども園	0	1	1
放課後児童クラブ	10	16	6
放課後子ども教室	8	11	3
子育て支援センター	7	7	0
学校(小・中・高)	16	16	0

2 野村地区の人口・社会資源の状況

人口

	平成 23 年	平成 29 年	増減
総人口	2,068 人	2,080 人	12 人
65 歳以上	人口 557 人	599 人	42 人
	比率 26.9%	28.8%	1.9%
18 歳以下	人口 287 人	345 人	58 人
	比率 13.9%	16.6%	2.7%
外国籍	人口 108 人	156 人	48 人
	比率 5.2%	7.5%	2.3%

世帯

	平成 23 年	平成 29 年	増減
総世帯	979 世帯	989 世帯	10 世帯
ひとり暮らし	55 世帯	54 世帯	-1 世帯
ふたり暮らし	26 世帯	40 世帯	14 世帯

地域組織

	平成 23 年	平成 29 年	増減
自治会	12	12	0
老人クラブ	2	2	0
子ども会	3	3	0

	平成 23 年	平成 29 年	増減
民生委員・児童委員	3 人	3 人	0
福祉委員	24 人	27 人	3
介護保険施設・事業所	1	2	1
障がい福祉施設・事業所	0	0	0
ふれあい・いきいきサロン	1	2	1
子育てサロン	1	1	0
コミュニティサロン	0	0	0
保育所	1	1	0
幼稚園	0	0	0
認定こども園	0	0	0
放課後児童クラブ	0	0	0
放課後子ども教室	0	0	0
子育て支援センター	0	0	0
学校(小・中・高)	0	0	0

まちづくり三決

安全安心で住みよいまち

子どもらがすこやかに育つまち

健康で文化的な暮らしのできるまち

自治三決（共助精神）

人のお世話にならぬよう

人のお世話をすよう

むくいをもとめぬよう

後藤新平が晩年、自治精神を鼓吹するために唱えた「自治三決」である。後藤は関東大震災後の帝都復興に尽力する一方、ボーイスカウト日本連盟総裁として次世代を育てることに腐心した。

野村地区まちづくり計画 平成30年4月

発行	：	野村地区まちづくり協議会
住所	：	〒519-0165 三重県亀山市野村三丁目 10-9 野村地区コミュニティセンター内
		TEL&FAX 0595-82-1449
E-Mail	：	nomura1449@za.ztv.ne.jp
URL	：	http://nomura-mk.org